

病が世界を動かす

人類の歴史で最も多くの命を奪ってきたのは戦争でも災害でもない それは感染症(伝染病)です

2020年3月、新型コロナが世界を不安に陥れ、全世界にわたり感染が確認された

3月26日現在、41.2万人以上が感染、1800人が死亡している

目に見えない相手・ウイルスへの恐怖から社会不安が発生、政治経済金融の世界はパニック状態、

NY株式市場はじめ全世界の株価は歴史的な暴落、石油価格の急落……

各国での人の移動禁止、国境封鎖！かつてない緊張した異常状態が続いている。

世界史を振り返ると、「かつて、病が世界を動かした」例が多くあります 過去の歴史に学びたいと思います

マラリア

繁栄を誇った古代ローマ帝国はマラリアで衰退した

蚊を媒介するマラリアはイタリアの風土病。2世紀中頃、ローマが巨大になるにつれ、多くのアフリカ、中近東から奴隷たちが流入。奴隷が持ち込んだマラリアがローマで大流行、多くの命が失われ、国力が低下した。

6世紀初頭、マラリアの北限より北に位置していたフランク王国が繁栄、南の東ゴート王国、西ゴート王国は短期間で衰退

ゲルマン民族が南下し、476年、西ローマ帝国が滅亡。マラリア流行地にブアンダル族やゴート族の国々が建国されるが短期間で衰退する。マラリア流行で……平清盛はマラリアで亡くなった、と言われる。

ペスト

6世紀半ば、東ローマ帝国=ビザンツ帝国(首都コンスタンティノープル)発生の急性感染症ペストは60年にわたって延漫

首都で大流行したペストは一日に5000人から一万人もの死者が出た。菌が肺に入ると、3日以内に死亡した。ペストは約300年周期で流行を繰り返した。

14世紀、中央アジア発のペストがシルクロードで欧州へ、欧州人の三分之一が死んだ黒死病(ペスト)

1347年から50年にかけて、伊・独・仏・英へ広がり死人の山を築いた。労働力が減り、教会の権威が失墜し、後の宗教改革につながった。黒死病は中世に終わりをつける役割を果たした。

1894年、ペスト菌は北里柴三郎によって発見された。

天然痘

16世紀、南米のアステカ王国、インカ帝国は天然痘で滅びた

15世紀から16世紀にスペイン人がアメリカ大陸に進出、彼らは天然痘や様々な病原菌を新大陸に持ち込んだ。新大陸の先住民は免疫を持たず、アステカ帝国人口の半分が天然痘で死んだ。皇帝も要人も病にかかり自滅した。

紀元前から欧州人を悩ませてきた天然痘が、新大陸ではプラスに作用した。

梅毒

コロンブス一行が新大陸から運んだ性の病・梅毒はヨーロッパ中心に広がり、大航海時代、インド・中国に広がり20年後の1512年には日本にも到着
梅毒は親から子供に感染する性質がある

当時、性行為は、現在よりおおらかだった。梅毒は欧州の王族・貴族の間で大流行。梅毒にかかった王として有名なヘンリー8世。梅毒により脳が侵され、残忍な政治で多くの罪のない人や妻や子供を処刑した。晩年は狂気で死。ヘンリー8世の子供で唯一成人したのがメアリー、先天性梅毒にむしばまれていた。王位に就いたのち、プロテスタントを弾圧し、300人を処刑にした。後世、「血のメアリー」と呼ばれた。トマトジュースを使ったカクテル「ブラディメアリー」は彼女に由来する。梅毒の蔓延下、性行為を慎む清教徒(ピューリタン)が起こる。夫婦制度の強化、売春の抑制こそが梅毒を食い止める唯一の道でした。

シャルル8世、ヘンリー8世、シューベルト、シューマン、ニーチェ、ボードレール、加藤清正、浅野幸長は梅毒でなくなる。1911年 野口英世は梅毒スピロヘーターの純粋培養に成功

結核

産業革命の黒煙と劣悪な生活環境が結核を養う

結核は古代エジプトから続く病気ですが、急性感染症でないため、大流行をして甚大な被害を与えることはなかった。18~19世紀のロンドン、産業革命時、過密な労働環境が結核の温床になり、5人に一人が結核で亡くなったという。明治維新以降の日本では結核は国民病と言われ、多くの命を奪った。

インフルエンザ

スペイン風邪、第一次大戦を終結させたインフルエンザ

アメリカから世界に広がったスペイン風邪は世界で5億人(世界人口18億人)が発症、8000万人が死亡したといわれる。第一次世界大戦時、フランスを攻めていたドイツ軍兵士がインフルエンザにかかり、攻撃できなくなった。

20世紀 3回のインフルエンザ大流行があった。

1918年のスペイン風邪 8000万人死亡
1956年~アジア風邪 100万人以上死亡(日本5700人死亡)
1968年、香港風邪 50万人亡くなる

2020年 新型コロナウイルス 全世界がパニック状態に